



学校だより

平成28年 9月 1日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.460

はきものをそろえると 心もそろろう

校長 谷田 弘子

日本人選手の大活躍で盛り上がった「リオデジャネイロ五輪」が幕を閉じました。日本は、金メダル12、銀メダル8、銅メダル21と過去最多のメダルを獲得しました。みなさんも色々な競技を通じて、日本選手のがんばりを誇りに思ったことでしょう。閉会式では、オリンピックの旗が、東京都の小池知事に手渡されました。4年後の、東京オリンピックに向けて、準備が加速することになります。9月7日からは、リオでのパラリンピックが始まります。是非、日本選手の活躍を応援しましょう。

いよいよ、2学期が始まりました。夏休み中、大きな事故や怪我、病気の報告はなく、みんな元気に過ごすことができたようです。ここで、夏休み中に会った詩を紹介します。

～はきものをそろえる～

はきものをそろえると 心もそろろう

心がそろろうと はきものもそろろう

ぬぐとくに そろえておくと

はくとくに 心がみだれない

だれかが みだしておいたら

だまってそろえて おいてあげよう

そうすればきっと 世界中の人の心も

そろうでしょう

この詩は、長野県にある円福寺というお寺の和尚さんだった藤井幸邦さんという方がつくった詩です。この詩がどうやってできたかを少し紹介します。今から70年ほど前、日本が戦争をし、終戦を迎えた時、東京中は焼け野原になっていました。そのような中、上野駅の周りには、食べ物や生活に必要な物を売って利するお店がいくつも並び、多くの人々が集まるようになっていました。大人だけではなく、戦争で親を亡くした子供たちもた

くさん集まっていました。その子供たちは、着る物もぼろぼろで、多くの子供たちが裸足でした。さらに、行き交う人々に物乞いをしたり、スリや置き引きなどをしたりして暮らしていました。それを見た藤本さんは、とても心を痛め、そのような子供たちを自分のお寺で育てることにしたのです。そして、さっそく3人の子どもを連れて、長野県にあるお寺に帰りました。その後、育てる子供たちの数が少しずつ増え、20人、30人と多くなっていきました。ところが、ある日、玄関を見ると、脱ぎ捨てられた靴が重なったり、あちらこちらにばらばらになったりしていたのです。それを見た藤本さんは、また心を痛めてしまったのです。そこで、藤本さんは、子供たちに、「はきものをほっぽらかしにしておくと、また戦争になってしまいますぞ。」と伝えたのです。これがきっかけとなって、この詩ができたのです。

この詩は、子供たちに何を教えようとしたのでしょうか。自分の靴をそろえずに脱ぎっぱなしにするという行動は、他の人がどのような気持ちになるのかということを全く考えていないということを表しているのです。しかも、自分さえよければいいといった自分勝手な考え方しかしていない行動だということです。反対に、自分の靴をそろえることができる人は、心が穏やかで、自分の行動を冷静に考え、他の人がどのような気持ちになるのかも考えることができる人です。さらに、そのような人は、他の人が乱した靴を黙ってそろえることができる人でもあるのです。他の人の気持ちに考えを巡らすことができるようになれば、お互いに気持ちの良い生活ができます。他の人の気持ちを思いやりながら、穏やかな気持ちで、2学期を過ごしましょう。

